

高齢男性をサービス利用につなげる新たな支援過程の検討

ーソーシャルワークの仲介機能の再考を通じてー

○京都府立大学大学院 山本 大輔 (9710)

キーワード：高齢男性、仲介、エコシステム

1. 研究目的

近年の介護保険サービスの利用状況をみると、女性と比較して男性の利用者は少ない。このことは男性の要介護状態になりにくいことをあらわしているわけではなく、むしろサービスを必要としていても女性の場合より男性は利用につながりにくいことが考えられる。それはこれまでの筆者の研究から、高齢男性のサービス利用は、家族やケアマネジャー、主治医など第三者による誘いや勧めによって開始されることから理解できる。つまり高齢男性は仲介されることで支援につながるものが可能となるのである。しかしその仲介がうまくいかなければ、高齢男性は支援なしの状態に置かれかねない。

この仲介はソーシャルワークの機能のひとつとして位置づけられている。そのため高齢男性の支援にもソーシャルワークの視点でのかかわりが必要であると考えた。しかし先行研究をみるかぎり、この仲介を「利用者と社会資源を結びつける」という意味以上に踏み込んで検討されてきたとは言い難い。この仲介の意味内容を検討し新たな仲介概念を提示することは、支援の必要性の認識や、他者に助けを求めることの困難な人への対応に有効である。そこで本研究は高齢男性を支援につなげるソーシャルワーカーのかかわりを仲介支援と呼び、その支援過程を明らかにしたいと考えたのである。

2. 研究の視点および方法

本研究は、文献研究により従来の仲介の位置付けを整理し、高齢男性支援に求められる新たな仲介概念の提示を試みるものである。その手順としてまず①高齢男性支援の現状の問題、②現状考えられている仲介の意味の2点を整理する。同時にソーシャルワークの視点から高齢男性を理解するための理論的前提としてエコシステム視座に着目しその特徴を明らかにする。

これらを通じて高齢男性支援における仲介を、多様で個別性の高い生活の視点から検討する。ここでは新たな仲介の意味や仲介支援を構成する要素の整理を通じて、仲介をおこなう際の複雑な過程を明らかにする。その検討から新たな仲介概念にもとづく高齢男性支援方法の提示につなげたいと考えたのである。

3. 倫理的配慮

本研究は日本社会福祉学会の研究倫理規程を遵守し実施している。また本報告に際して開示すべきCOI（利益相反）はない。

4. 研究結果

まず現状の高齢男性支援の問題を先行研究から整理した。その結果、運動や趣味活動、地域活動に参加しているのは健康状態に問題のない場合である。そうした活動に関心のない者や、健康状態に問題のある者は地域との関係も希薄になる。さらに勤労者として仕事中心の生活を送ってきた高齢男性はもともと居住地とのつながりが希薄で、定年退職をきっかけに孤立に陥りやすい。このような高齢男性に対する支援プログラムの開発は、その必要性が提言されるのみでほとんど未着手であることも指摘されている。

地域とのつながりの希薄な高齢男性は孤立傾向にあり、身の回りの支援を家族に依存する。そこで高齢男性を家族以外のフォーマル、インフォーマルな支援につなげていく支援が必要になる。ここでソーシャルワーク機能のひとつである仲介が必要となるが、ここでの仲介は単に既存のサービスを紹介し利用を勧めることを意味している。しかし高齢男性の場合、それだけでは有効な支援になりにくい。そこで新たな仲介概念が必要となる。

高齢男性支援のための新たな仲介概念は、ソーシャルワークのエコシステム視座を前提とすることが必要不可欠である。それは①高齢男性の多様な生活をシステムでみること、②生態学的視点にもとづいてプロセスを重視すること、③仲介に従来と別な機能を含めること、の3点に整理することができるのである。

5. 考察

高齢男性を制度やサービスの利用から遠ざける要因を、彼らの生きた時代背景を踏まえて①性別役割分業の影響、②スティグマの存在、③被援助志向性の問題、④ソーシャルサポートの乏しさ、の4点を指摘できると考えた。彼らを支援するためにはこれらの問題への対応を考慮にいれなければならないのである。

またこれまでのソーシャルワーク機能に仲介は存在していたものの、「利用者和社会資源を結びつける」以上の意味は見いだせなかった。しかし実際にソーシャルワーカーは仲介をおこなうために、利用者や社会資源との間で多様な相談をおこなっているのである。それは利用者のための便宜として、既存の資源を変形したり組み合わせたりすることを通じたパッケージ化を意味する。それらをふまえて新たな仲介機能を構成する要素として、①社会資源の調整、②ソーシャルワーカーの交渉、③結果としての連携状況、の3点に整理した。ここでは従来とは異なり、仲介に調整や交渉、連携の機能を含めて一体のものとして考えているのである。

この仲介支援をすすめるためには利用者理解が必要不可欠である。それはエコシステム視座にもとづく生活全体をとらえるものであることが求められる。しかもそれはソーシャルワーカーだけでなく高齢男性本人も状況を認識する必要がある。つまり利用者と支援者の協働によるアセスメントが必要不可欠となる。そのことをふまえた仲介支援の実践展開が今後の課題である。